



日米の知見をつなぎ、混在交通の未来をともに考える／

日米合同シンポジウム 混在交通の現在と未来



同時開催
自動運転バス試乗
& 混在交通実験
PIX (10～13時)

自動運転・ロボット・PMVが共存する社会に向けて、
技術・社会・倫理の視点から、日米の研究成果や実践を共有し、
よりよいルール、運用、教育のあり方を考えます。

日米協働で
未来の移動を
創る



令和8年

9月17日(木)

13:00～17:00 (開場12:30)



場所

多摩大学・多摩キャンパス
001教室
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1



開催方式

対面開催
同時通訳あり

参加無料
事前申込制

(定員に達し次第締切)



参加対象 どなたでもご参加いただけます (参加無料・事前申込制)

一般市民・行政・企業・大学関係者・JAC-US (米国政府の人物交流プログラム同窓生) など
興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

プログラム (予定)

第1部 技術 13:00～

- ① 開会挨拶 樋笠 堯士 (多摩大学・准教授)
- ② 来賓ご挨拶 アメリカ大使館
- ③ 「パーソナルモビリティ車両の多様性を探る—社会的受容性とELSI (倫理的・法的・社会的課題)に関する考察—」
中川 智皓 (大阪公立大学・教授)
- ④ 「Landscape and Prospects of Autonomous Vehicles」
Ching-Yao, Chan (Berkeley Artificial Intelligence Research Lab (BAIR)
University of California at Berkeley)
- ⑤ 「Automated Vehicle and Pedestrian Interactions in Urban Driving:
Lessons Learned From A Demonstration Project.」
Peggy Wang (California PATH, University of California at Berkeley
Partners for Advanced Transportation Technology Lead Researcher)



シンポジウムのポイント

- ✓ 日米の研究者・実践者が最新の知見を共有
- ✓ 技術だけでなく、社会的受容性や倫理 (ELSI) の視点から議論
- ✓ パネルディスカッションや市民参加ワークショップで、未来のルールや教育を考える
- ✓ 最新の研究成果の展示の閲覧や担当者との意見交換やネットワーキングも可能
- ✓ 同時開催の自動運転シャトルの試乗や混在交通デモンストレーションを見学可能

第2部 社会的受容性 14:10～

- ① 「日本における混在交通の社会的受容性とELSI」
樋笠 堯士 (多摩大学・准教授)
- ② 「混在交通時代における責任、アルゴリズム、協調、および優先性」
稲荷森 輝一 (広島大学大学院人間社会科学研究所上席応用倫理学講座 研究員)
- ③ 「Public perception of autonomous driving systems in the U.S.」
Henriette Cornet (CEO at Urban Innovate &
Adjunct Professor of the University of San Francisco)



お申込み方法

下記のURLまたは二次元コードからお申込みください。
<https://mixedtraffic-japan-us.peatix.com>

※定員に達し次第、締め切らせていただきます。



お問い合わせ・取材依頼

多摩大学
混在交通シンポジウム事務局
E-mail: hikasa@tama.ac.jp
TEL: 042-337-1111 (代表)



第3部 パネルディスカッション+Q&A 15:00～

- ① パネルディスカッション 15:00～15:30
モデレーター: 三浦 世子 (Founder & CEO of North Greenation)
登壇者: Ching-Yao, Chan・Peggy Wang・Henriette Cornet・
樋笠 堯士・中川 智皓・稲荷森 輝一
- ② Q&Aセッション 15:30～15:50



第4部 ワークショップ 16:00～17:00

- ① モデレーター: 登壇者全員 参加者: 来場者全員
 - ② 閉会挨拶 岩波 隆一郎・Uber Japan株式会社 政府渉外・公共政策部長
- ※プログラムは都合により変更となる場合があります。

主催 多摩大学

共催 大阪公立大学

後援 アメリカ大使館
多摩大学ELSI研究センター



来場者向け専用バスを用意
(永山駅～大学)

本シンポジウムは、国立研究開発法人科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発 JPMJRS24I2)およびJST RISTEX 社会技術研究開発事業(国際活動推進強化支援)による成果である。



HIROSHIMA UNIVERSITY



多摩大学



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



アメリカ大使館